



# 宇宙線驟雨のなかで

作詩 草野 心平

作曲 多田 武彦

七色の微塵になつて。  
雨がふる。  
屋根をとほし。

寝てゐる私のからだをとほし。  
日向雨よりももつと美しい雨がふる。

右の庭にはハツ手と苔と大竹藪と。  
左の庭には藤棚と蔦をかぶつた車井戸と。

栗色の天井。

嘉永の簾笥。

ひぐらしが鳴く。

さうして私はまた眼をつぶる。

虹色の雨が。

煙の棒のやうに私のからだをとほつてゆく。

痛みが消えて。

右肺のなかに青いシグナルがほのかにとぼる。  
ともういつかの健康が。  
野菜車のやうに踏切を渡る。

私は眼をひらく。

栗色の天井がまたはじまる。



1930-2017



1903-1988

男声合唱組曲「草野心平の詩から・第三」

# IV 宇宙線驟雨のなかで

やや速く、表情豊かに  
♩=110

作詩 草野 心平  
作曲 多田 武彦

T1.2 *mp*

なないろのみじんになつてあ一めがふる

B1.2 *mp*

5

*poco cresc.*

からだをとおし  
やねをとおし  
ねているわたしの

*poco cresc.*

9

*poco rit. e dim.*

ひなたあめよりももつとうつくしいあめがふ

13

かなり速く、淡々と  
♩=124

みぎのにわにはやつでとこけとおおたけやぶ  
みぎのにわにはおおたけや

17

8

ひだりのにわにはくるまいどー<sup>と</sup>  
ぶとひだりのにわにはふじだなとつたをかぶつた

p

21

poco rit.

8

と

a tempo

くりいろのてんじょう  
くりいろのてん

p

くるまいどと

25

8

かえいの一たんす  
じょう

かえいの一たんす

ひぐらしがなく  
ひぐらしがなく

そうして

mp

mf

p

29

rit e dim.

8

わたしは一まためをつぶる

にじいろ

中庸の速さで、しみじみと  
mf = 88

mf

33

8

のあめがけむりのぼうのようないわたしの

37

からだをとおつてゆく一いたみが

*mp*

41

きてみぎはいのなかにあおいシグナル

*mf*

*mf*

45

がほのかに一とぼるともうともういつかの

*mp*

*mf*

*p*

*mf*

49

いつかのけんこうがともういつもいつかのけんこうや

*poco*

*a*

*poco*

*accel.*

52

がやさいぐるまのようふみきりをわたる

*sa*

*iguru*

♩ = 144  
 56 *mf*  
  
 わたしは めをひらく わたしは めをひらく わたしは めをひらく  
 - わたしは めをひらく わたしは めをひらく  
*mf*  
 60 *f*  
  
 くりいろの てんじょうが または じまる  
 ひらく てんじょうが または じまる  
*f*  
 64 *f*  
  
 なないろのみじんになつてあ一めがふる  
*f*  
*rit.*  
 68  
